



知られざる ランチェスター先生の経歴

【マル秘メルマガ】より 19通目その1

◆技術者として出発

兄は、20歳になった1888年に、収入の道を考えなければならないことに気付いた。

この時、学術的資格も技術者としての資格は1つもなかったものの、特許事務所で下働きの製図工ながら堂々、1時間6ペニスのサラリーで働くことができた。この条件で2週間働いたあと、契約を交わして働くことを決心した。

仕事を家に持ち帰ってすることにより、1週間に3ポンド以上の収入をあげることが出来た。

兄はこの期間に製図工の道具で「S Metrograph」とよばれるものを発明し特許をとった。

2～3個のサンプルを作ったあと特許を25ポンドで売り、オリジナルな特許図も描いて最終的に20ポンドの利益を得たことに気付いた。

1888年も終わりになって、バーミンガムにあるガスエンジン会社のT・B・バーカー氏に会う機会を得、次の様な話をした。

この面談中の過程については兄自身の原稿から引用したものである。(注・ガスエンジンとは、都市ガスを燃料として動くエンジンで、イギリスだけで発達していた。蒸気機関と比べると石炭を燃やすボイラーデ部分が不要のために、とても小型にできた。)

“バーカー氏の工場を訪問したあと、バーカー氏はバーミンガムのニューストリートにある、コロネードホテルで会う事を約束してくれた。

バーカー氏はただサインさえすればよい複写の協定書を用意していた。法的に彼の助手になることではなかったが、一枚の写しに目を通した。

事前の打ちあわせもなく、バーカー氏は一定期間、1週間1ポンドの給料で働く内容についていた。

兄はこれに反対はしなかったが、今までの経験を通して充分役に立つ事ができ、他の事においても充分な利益をもたらすことが出来る、ということは言っておいた。

彼は明らかにこのことを非常によろこんだ。

次の2ページ目には、私がこれから行なおうとするいろいろの進歩や改善に対する工夫は、全てバーカー氏が経営する会社の財産となる、という一節があった。

これには私は異議をとなえた。

バーカー氏は、冷笑をうかべてこう答えた。「君がこれからガスエンジンの作り方を私達に教えようとしている、などとは思ってはいけないよ」と。

これに対して私は答えた。「勿論あなたはそんなことはなさらないと思いますよ。だからこそ、私としてはこの一節を認めることができないのですよ」

こう言った後、ペンにしっかり力を入れて2枚の書類のこの項を消した。

この後しばらくして、私は振子調整機を発明して特許をとった。

そしてバーカー氏はうまくいった時は各エンジンに対し、10%の特許権使用料を払うようになった。

これは最初の頃のことであった。

間もなく全ての事が大々的になっていった。

バーカー氏の所のマネージャー、チャールズ・リンフォードが私の上司になった。彼は結核を患っていて非常に症状が進んでいた。

彼が亡くなつてそのポジションが私にまわってきた。リンフォード氏は「自分がやがて死ぬ運命にある」という事を知っていたようである。

しかし私に対して彼のポジションを維持するのに必要なことを、何も教えてくれようとしなかった。が、彼が亡くなったあと、あらゆる面の仕事を進めて行く上で、あまり支障はなかった。

(続く)

 ランチェスター経営（株）

〒810-0012 福岡市中央区白金 1-1-8 チュリス薬院 301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>

